

～ 琉球通宝について～

特徴や査定の注意点についてご紹介

琉球通宝について

名前は「琉球」ですが、実際に作ったのは薩摩藩（鹿児島県）です。1862年（文久2年）、薩摩藩が「琉球救済」を名目に幕府から許可を得て鑄造しました。しかし、本当の目的は軍備増強や海外交易のための資金作り（実質的な密鑄に近い増刷）だったと言われています。沖縄という歴史的背景も相まってコレクターが多く、天保通宝よりも高い価格で取引される傾向にあります。

種類

琉球通宝には大きく分けて「**當百（とうひゃく）**」と「**半朱（はんしゅ）**」の2種類があります。

1 琉球通宝 當百（小判型）



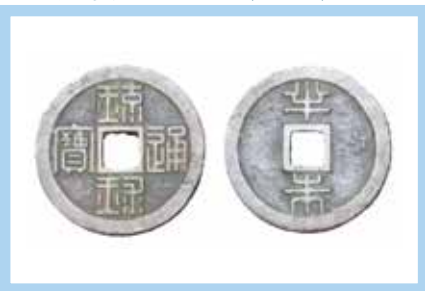
天保通宝とそっくりな楕円形

当時の価値：100文（天保通宝と同じ）

書体：楷書体

買取相場：**2,000円**前後

2 琉球通宝 半朱（丸型）



非常に大きくて重い（約30g以上）のが特徴

当時の価値：250文相当（1両の32分の1）

書体：篆書体

買取相場：**3,000円**前後

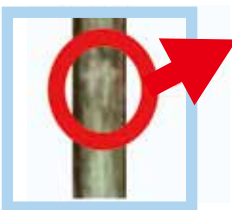
査定上の注意

査定の際は下記2点を踏まえたお写真ををお願いいたします。

1 琉球通



2 側面の写真



側面に薩摩の「サ」という文字が刻印されています。刻印が薄く、見つけにくい場合がありますので 側面1周分の写真を撮って送っていただくことをお勧めします。

ご不明な点がございましたら、商品部までお問い合わせ下さい。